

2016 年度 日本呼吸療法医学会定時社員総会 議事録

日 時：2016 年 7 月 15 日（金）15：30～18：00

場 所：ANA クラウンプラザホテルグランコート名古屋 5 階 ローブルーム
（〒460-0023 名古屋市中区金山町一丁目 1 番 1 号）

【議事次第】

I. 開 会（川前理事長）

- ・開会に先立ち、逝去された名誉会員の木村謙太郎先生に黙祷が捧げられた。
- ・代議員 97 名中、出席者 76 名、委任状提出が 19 名あることが報告された。
- ・出席者と委任状提出が代議員数の過半数なので本総会の成立が確認され、開会が宣言された。

II. 理事長挨拶

- ・川前理事長より挨拶があった。

III. 会長挨拶

- ・西田会長より挨拶があった。

IV. 役員選挙

- ・理事長が選挙管理委員を竹田晋浩先生と布宮伸先生に委嘱した。
- ・理事立候補者は 7 名（今中秀光先生、大塚将秀先生、川前金幸先生、小谷 透先生、志馬伸朗先生、蝶木林直彦先生、西田 修先生）、監事立候補者は 2 名（落合亮一先生、橋本 悟先生）であることが報告された。
- ・いずれも定数内であったため、挙手で諾否を問い、満場一致で承認された。

V. 報告事項

1. 新代議員の紹介（川前理事長）

- ・15 名の新代議員が紹介された。
- | | | |
|-------|------------|-------------------------|
| 相嶋 一登 | 臨床工学技士 | 横浜市立市民病院臨床工学部 |
| 青景 聡之 | 医師 | かわぐち心臓呼吸器病院集中治療室 |
| 大下慎一郎 | 医師 | 広島大学病院高度救命救急センター講師 |
| 柏 庸三 | 医師 | 大阪大学医学部附属病院集中治療部助教 |
| 梶原 吉春 | 臨床工学技士 | 社会医療法人財団大和会東大和病院 ME 室 |
| 岸川 典明 | 理学療法士 | 愛知医科大学病院リハビリテーション部技師長 |
| 古田島 太 | 医師 | 埼玉医科大学国際医療センター集中治療科教授 |
| 関口 浩至 | 看護師 | 社会医療法人友愛会豊見城中央病院 |
| 玉木 彰 | 理学療法士 | 兵庫医療大学大学院医療科学研究科 |
| 陳 和夫 | 医師 | 京都大学大学院医学研究科呼吸管理睡眠制御学講座 |
| 松本 幸枝 | 看護師・臨床工学技士 | 榊原記念病院 |
| 森沢 知之 | 理学療法士 | 兵庫医療大学リハビリテーション学部理学療法学科 |
| 横山 俊樹 | 医師 | 公立陶生病院呼吸器・アレルギー疾患内科部長 |
| 吉岡 淳 | 臨床工学技士 | 山形大学医学部附属病院臨床工学部 |
| 渡部 晋一 | 医師 | 倉敷中央病院総合周産期母子医療センター長 |

2. 理事会および社員総会報告（川前理事長）

- ・前年度の定時社員総会議事録と理事会議事録が報告された。

3. 定款施行細則変更の件（川前理事長）

- ・大塚理事より、理事会で以下のとおり定款施行細則を変更した旨が報告され、承認された。
第 1 条 (3) 【改定】代議員の新規申請または更新の資格は、申請年の 4 月 1 日に満 64 歳以下であることとする。
第 5 条 【追加】代議員は以下の業務を行う。
(1) 定時社員総会に出席し、会員を代表して議決権を行使する。

- (2) 各委員会から推薦を受けた場合、委員として委員会活動に参画する。
 (3) 学術集会に出席し、依頼のもとに座長としてセッションの司会を行い、機関誌への投稿推薦を提出する。
 (4) 依頼のもとに投稿論文の査読を行う。

第6条【改定】理事長は、代議員審査委員会に諮って再任を希望する代議員の資格審査を行う。次の各項のいずれかに該当する代議員は再任されない。

- (1) 特別な理由がないにもかかわらず、委任状の提出なく直前3年間の定時社員総会に出席がないとき。
 (2) 理事会で再任が不適当と認められたとき。

第15条【改定】職種指定理事は、選挙理事選挙の年に代議員の中から新理事長がこれを選任し、社員総会に報告して承認を得る。

4. 事務局報告（大塚事務局担当理事）

1) 一般会員：2,029名（2016年7月1日現在）

職 種	2013/ 10/1 (%)	2014/ 4/1 (%)	10/1 (%)	2015/ 4/1 (%)	10/1 (%)	2016/ 5/1 (%)	7/1 現在 (%)
医 師	978 (43.8)	976 (46.4)	1,015 (46.1)	993 (47.0)	1,028 (47.4)	986 (49.7)	1,006 (49.7)
看護師	585 (26.2)	512 (24.3)	545 (24.8)	505 (23.9)	512 (23.6)	423 (21.3)	431 (21.2)
臨床工学 技士	474 (21.2)	441 (21.0)	457 (20.8)	437 (20.7)	445 (20.5)	418 (21.0)	425 (20.9)
理学療法士	137 (6.1)	123 (5.8)	132 (6.0)	126 (5.9)	129 (6.0)	117 (5.9)	122 (6.0)
その他 ※	37 (1.7)	29 (1.4)	27 (1.2)	28 (1.3)	27 (1.3)	22 (1.1)	25 (1.2)
企業関係	24 (1.1)	24 (1.1)	24 (1.1)	23 (1.2)	25 (1.2)	20 (1.0)	20 (1.0)
会員総数	2,235 (100)	2,105 (100)	2,200 (100)	2,112 (100)	2,166 (100)	1,986 (100)	2,029 (100)

※准看護師・作業療法士・栄養士・院生・学生・教員・学内講師・RN・MSN・研究エンジニア・薬剤師・
 歯科衛生士・歯科医師・言語聴覚士・臨床心理士など

- 《参考》1. 会員総数のうち、女性会員 559名（医師 130名、看護師 324名、
 技士 64名、理学療法士 31名、その他 10名）
 2. 年度末退会者 2名を含む（2017年3月末退会予定者）
 3. 3年分会費滞納者 105名を含む（2017年3月末退会対象者、7月1日現在）

2) 賛助会員：12社（2016年度）

3) 会費納入率

年 度	2013	2014	2015
納入率（相当人数※）	89.8%（1,891）	77.8%（1,644）	97.6%（2,137）

※過去の未納分も含めた納入額に対する相当数。

4) 代議員（2014.07～2016.07）の所属変更

- ・池崎弘之先生（医療法人社団公仁会大和成和病院麻酔科・集中治療室より
 かわぐち心臓呼吸器病院）
- ・石原英樹先生（大阪府立呼吸器・アレルギー医療センターより八尾徳洲会総合病院呼吸器内科）

- ・今中秀光先生（徳島大学医学部より宝塚市立病院集中治療部）
- ・公文啓二先生（近畿大学医学部奈良病院 救命救急センターより
医療法人沖縄徳洲会吹田徳洲会病院）
- ・小谷 透先生（東京女子医科大学麻酔科学教室・中央集中治療部より昭和大学麻酔科学講座）
- ・清水 雄先生（筑波大学大学院人間総合科学研究科より水戸協同病院麻酔科）
- ・中沢弘一先生（東京医科歯科大学大学院生体集中管理学分野より宇都宮記念病院麻酔科）
- ・野口裕幸先生（北里大学保健衛生専門学院臨床工学専攻科、CE 野口企画）
- ・星 邦彦先生（東北大学病院集中治療部より東北医科薬科大学麻酔科学教室）
- ・水谷太郎先生（筑波大学医学医療系救急・集中治療部より筑西市医療監）

5) 訃報

- ・本会名誉会員の木村謙太郎先生が、2016 年 5 月 22 日（日）に逝去された。

5. 第 39 回日本呼吸療法医学会学術集会準備状況（布宮副会長）

- ・2017 年 7 月 15 日（土）～16 日（日）に東京ファッションタウンビルにて開催予定。
- ・ポスター、チラシが完成し、コンベンション会社が決定した。

6. 各委員会の活動報告

1) 将来計画委員会（川前委員長）

- ・医師向けセミナーは好評のため本年度から年 2 回実施することとした。本会専門医制度とも整合性を図り、呼吸療法・呼吸管理ができる医師の育成を見据えて進めていく。
- ・学会運営に関する建設的意見を受け入れる窓口を学会 HP に設ける案を理事会に提案し承認された。
- ・多施設共同研究の仕組みを学会内に構築する必要性を理事会に提言し承認された。

2) 人工呼吸編集委員会（中根委員長）

- ・『人工呼吸』第 32 巻 2 号を 2015 年 11 月末に、第 33 巻第 1 号を 5 月末に発行した。
- ・過去 5 年の新規投稿採択数の推移を調査し、ここ 2 年間で増加したことが分かった。
- ・査読依頼方法を改善し、改善前に比べてこの 2 年は査読承諾率が 20%程度上昇した。
- ・正副委員長 3 名による事前査読を、2014 年度は 20 回、2015 年度は 39 回実施した。
- ・編集委員をはじめとする代議員の査読担当状況を報告した。
- ・『人工呼吸』第 32 巻に掲載された 8 本（原著 1 本、呼吸管理の工夫 2 本、短報 5 本）の投稿論文を対象に学会賞の選考を行い、奨励論文賞 2 件の受賞が決定した。7 月 16 日（土）の第 38 回学術集会会員懇親会で表彰式を開催し、理事長から賞状と副賞を授与する予定。
- ・投稿規定について、単位記載に関する変更、不正論文取り扱い規約の制定、主著者の職種明記の追加、以上 3 件改訂した。
- ・用語集改訂第 2 版を 2016 年 2 月、学会 HP に掲載した。今後は必要に応じて審議を行い、5 年ごとを目途に改定を重ねる予定。
- ・今回の第 38 回学術集会で「コメディカルのための呼吸療法論文作成テクニック：初級編」を編集委員会企画として開催する。
- ・今後、各種委員会で作成されたガイドラインなどの掲載機会が増えることを見越して、これまで『人工呼吸』に掲載してきた規約や名簿等の資料を学会 HP への掲載に一本化することが理事会で決定し、第 33 巻 1 号から実施した。なお「賛助会員一覧」については引き続き『人工呼吸』に掲載する。

3) 代議員審査委員会（今中副委員長）

- ・委員長を含む委員 6 名が来年 2017 年 7 月に同時に任期満了を迎える。このままでは円滑な代議員審査に支障を生じるため、委員長を除く 5 名の対象委員はこの 2016 年 7 月で退任し、2017 年にそのうちの数名を含む新委員で委員会を構成する案が理事会で承認された。
- ・2016 年 7 月からの 1 年間は残った 3 名で委員会を運営し、鈴木委員が委員長として就任することが理事会で承認された。

- ・今年度、2年に1度の代議員再審査ならびに新代議員審査を行い、新代議員については申請のあった前述の15名全ての就任を承認し、理事会にて承認された。
 - ・代議員再審査については、現代議員97名中、任期満了者と再任辞退者を合わせた14名を除く83名の申請者の審査を行って全て承認し、理事会にて全員の再任が承認された。
- 4) 小児在宅人工呼吸検討委員会（田村委員長）
- ・2015年度から作成を進めていた小児在宅人工呼吸マニュアル（4次原稿）をこの学術集会ワークショップで提示し、パブリックコメントを募集することとなった。
 - ・マニュアルの公開方法は、PDF版を学会HPで公開するのみとするか、印刷版も製作して出版するか検討中。在庫管理方法・価格・販売方法などは引き続き検討する。
 - ・田村委員長が代議員の任期満了を迎えるため、今後は渡部副委員長が委員長に就任する。また尾崎担当理事も理事の任期満了のため交代の予定。
- 5) セミナー委員会（江木委員長）
- ・2015年度は以下セミナーを開催した。
 - 第40回セミナー（5月16日（土）神戸、272名）
 - 第17回実技コース（7月17日（金）京都、31名）
 - 第41回セミナー（11月7日（土）東京、250名）
 - ・2015年度決算については第41回を東京の新しい会場で開催したため、定員を減らして募集し座席に余裕を持たせたことで赤字となった。
 - ・2016年度は以下セミナーを開催予定。
 - 第42回セミナー（6月4日（土）神戸）
 - 第18回実技コース（7月16日（土）名古屋）
 - 第43回セミナー（11月13日（日）東京）
 - ・2016年度から医師向けセミナーはセミナー委員会が担当し、年2回開催する。
 - 第4回医師向けセミナー（8月27日（土）東京）
 - 第5回医師向けセミナー（2017年2月18日（土）神戸）
 - ・人事は、この2016年7月で江木盛時委員長、橘一也委員、森松静委員の3名が任期満了を迎え、委員長に今泉均委員が就任し、新任として平尾収先生（大阪府立急性期・総合医療センター麻酔科）、小林忠宏先生（山形大学医学部麻酔科学講座）が就任する。
- 6) チーム医療推進委員会（長谷川委員長）
- ・呼吸ケア・リハビリテーション学会との合同プロジェクトである「呼吸ケアサポートチーム(RST)プロジェクト」が4年目の活動を迎えた。UMINの症例登録システム「INDICE」を利用したRST登録システムならびにデータベースの試用版が完成し、間もなく試験運用を開始する。本運用は今秋以後の予定。システム運用は本委員会委員で担当予定。作業量の増加が見込まれる。
 - ・「非医師の会員投稿支援システム」を継続中。アナウンス不足で相談件数が伸びていないが、増加した場合は論文作成指導体制について検討が必要。
- 7) 人工呼吸管理安全対策委員会（齋藤委員長）
- ・人事については、以前在宅人工呼吸療法検討委員が編入されて現在は内規よりも委員数が多い。しばらくの間、任期満了者の後任選定は行わない。
 - ・人工呼吸器の突然の動作停止事例（2015年）は、報告7件で、うちアラームによる覚知は2件、停止に気づいたものは5件、実害なし4件、低酸素血症は3件であった。
 - ・動作停止事例の報告について日本臨床工学技士会の機関誌に症例集積の依頼を掲載していただくことで周知を図る方針とした。
 - ・2016年度は、人工呼吸器の突然の動作停止事例収集の継続、ハイフローセラピーに関するガイドラインの検討、人工呼吸中の身体拘束に関する審議、NPPVインターフェース「ヘルメット」に関する注意喚起文の検討などの活動を予定している。

- ・事例の集積に当たっては、業者・関連学会・PMDA などとの連携も有効ではないかとの意見が会場からあり、今後検討することが回答された。

8) 専門医委員会（鶴田委員長）

- ・委員長に中沢副委員長が就任し、中野実委員退任後は鈴木裕之代議員が就任する。
- ・2016 年度の研修施設申請は新規 7 施設、更新 4 施設であった。
- ・筆記試験の合格基準が、これまでは 4 問中 2 問を選択して得点合計 6 割以上であったが、今年度からは 6 問中 2 問を選択して 2 問とも 6 割以上となることに変更した。
- ・専門医新規申請者は書類審査と筆記試験があり、更新申請者は書類審査のみで審査の自動化を図ってきた。今後、さらに試験問題や採点など厳格化し、専門医基準を強化する。
- ・更新の際には学術集会参加証の提出が必須となるため、保管の徹底を周知したい。
- ・将来的には専門医制度の充実が本会の発展に重要な影響を与えると予測される。専門医資格を持つ会員の増加が医療現場の安全に繋がることを広く認識してもらうことで、専門医取得の動機づけが図れる。更新の仕組みなども含め、今後検討していく。

9) 危機管理委員会（中川委員長）

- ・市場委員が委員長に就任する。
- ・2015 年は韓国で中東呼吸器症候群（MERS）が流行し、学会 HP で MERS 情報を適宜更新した。また、2015 年 11 月 20 日（金）に東京医大臨床講堂で日本集中治療医学会と MERS 勉強会を共催し、韓国 Samsung Medical Center から Gee Young Suh 先生を招聘し、国立国際医療研究センターの忽那賢志先生とあわせてご講演いただいた。内容は 2016 年 11 月発行予定の『人工呼吸』第 33 巻第 2 号に委員会報告として掲載予定。本件に関しては、厚生労働省の MERS 研究班と連携中。
- ・今後、MERS に限らず、呼吸不全に至るような感染症疾患に関して、継続して情報収集を行い、必要に応じて勉強会を企画する。

10) ECMO プロジェクト委員会（竹田委員長）

- ・青景聡之委員が委員長に就任し、5 委員の退任にあわせて 5 名が就任した。
- ・2015 年度は、シミュレーションラボ（2015 年 12 月 13 日、藤田保健衛生大学にて開催）、厚生労働省と合同の症例登録のシステム作り検討、PCPS・ECMO 研究会正式発足、Asia-Pacific ELSO 開催、インフルエンザ重症例検討など行った。

11) 利益相反委員会（星委員長）

- ・COI 指針・細則について、日本医学会の COI ガイドライン改定に伴い 2015 年 7 月 18 日の委員会で審議を行い以下の内容が理事会で承認された。
 - ①学術集会での発表時、利益相反の開示はすべての演者が行う
 - ・開示に必要な COI の内容は、発表内容に限定する。
 - ・家族や生計を共にする者は COI の対象に含めない。
 - ・学会員外の発表者にも同等の開示を求める。
 - ・本会のロゴマーク入りのスライドを作成する。
 - ②日本医学会の基準を参考に COI 内容を変更
 - ・講演料の限度額は 100 万円以上を 50 万円以上に変更。
 - ・奨学寄付金の限度額は 200 万円以上を 100 万円以上に変更。
 - ・過去 3 年間の平均ではなく、3 年間に遡って各年ごとに開示する。
 - ・1 年は 1 月 1 日から 12 月 31 日とする。
 - ③違反時
 - ・罰則は現状通りとする。

12) 学術委員会（橋本委員長）

- ・2015 年度から組織を改編し、人数を絞ってスムーズな審議が図れる体制を整えた。

- ・委員長は前会長が務めることとし、1年ごとに交代する
- ・2016年度は西田前会長が委員長を務める
- ・本委員会は継続する学術集会の大方針を決定し、プロジェクト作成WGは個別の学術集会の内容の細部を検討する組織として位置付ける
- ・上記の内容に合わせて内規を改変した

13) 社会保険委員会（蝶名林委員長）

- ・保険委員会のサイトを学会HPに設け、診療報酬改定に関して要望を公募した。
- ・平成28年度の診療報酬改定で適応となったハイフロー療法に関し、費用対効果および安全性を調査して次年度改定に向けて準備を進めていく。

14) 財務委員会（落合委員長）

- ・任意団体の時には分けられていた学術集会と学会本体の会計を連結する案が理事会で提案され、検討が行われている。
- ・学術集会開催に天災など不測の事態が起こった場合を想定すると、繰越金3,000万円程本会会計でカバーするのは無理がある。
- ・財務状況改善に向けて、年会費の値上げも含めて対策を検討している。

15) 倫理委員会（久木田委員長）

- ・2014年末から委員会を立ち上げ、2015年度には内規を作成した。
- ・本委員会は、倫理問題の中でも臨床倫理的問題を取り扱うことが確認された。
- ・他学会の活動状況を情報収集し、今後の活動を検討していく。
- ・円滑な委員会活動の継続のため、組織の改変も検討中。

16) ARDS クリニカルプラクティスガイドライン作成委員会（橋本委員長）

- ・ARDS診療ガイドライン2016は、PDF版を7月9日に3学会のHPで公開した。書籍化は、日本呼吸器学会が前半部分、日本集中治療医学会が後半部分をそれぞれ製作・出版し、別々に販売することになった。秋頃販売開始の予定。
- ・メーカーからの使用許諾があった場合は経費をもとに算出した額を請求予定。
- ・本会としては、『人工呼吸』に3～4頁の委員会報告として掲載する予定。

17) 医工連携ワーキンググループ（中川委員長）

- ・2015年度は7月の京都学術集会でシンポジウムを開催し、8月に日本医療機器工業会人工呼吸委員会との合同会議を開催した。
- ・学会HPに設置している医工連携アイデア募集画面より、この1年間で8件の応募があり、提案者には経済産業省の医療機器アイディアボックスへの応募も推奨した。
- ・今回の学術集会では、人工呼吸に特化した医工連携セッションを開催する。
- ・ISO専門委員会121の用語委員会で、海外の換気モード用語を日本語に訳す案件が現在進められており、本会にも業務分担の依頼があるとの情報提供が会場からあった。

18) 自発呼吸アセスメント指針作成ワーキンググループ（尾崎委員長）

- ・指針作成が進み、現在前半部分が完成した。人工呼吸療法に関与するすべてのスタッフが使える指針を作ることを目的に、今回の学術集会でもワークショップを開催し、進捗を報告していく予定。

7. 委員交代について

- ・委員長が交代する7委員会について、理事会で委員会案が承認された（代議員審査、小児在宅人工呼吸検討、セミナー、専門医、危機管理、ECMOプロジェクト、学術）。
- ・委員交代についても理事会で承認された。

8. 学術集会時に委員会を開催するときの内規について
- ・理事会・各種委員会内規に条文を追加した。

VI. 審議事項

第1号議案 2015年度（2015年4月1日～2016年3月31日）決算書類承認の件
（大塚事務局担当理事、氏家・妙中監事）

<収入>

- ・年会費：予算 1,406 万円に対し、正会員の納入率が上がり増額となった。例年、予算は会員数 100%の額ではなく、80%として算出していた。追加して督促したことが納入率向上につながった。
- ・広告費：広告代は、32 巻 1 号の掲載社数が振るわず予算比減となった。2 号のユーザーレポートが 3 社となり減額となった。
- ・事業費：医師向けセミナーは、結果的に参加人数が当初の定員を超えたため増額となった。
- ・機関誌販売等：セミナー会場書籍販売が予定数より減少した。『人工呼吸』の別刷販売も減少した。

<支出>

- ・委員会費：例年の傾向通り、予算を多く見込みすぎたため実際はそこまで消化されず 68 万円ほどの予算比減となった。小児在宅、危機管理は活動が活発なため増額となった。
- ・事業費：医学会セミナーでは 23 万円の赤字となった。関東での開催会場を変更した初年度のため、安全をみて募集人数を制限したためであり、次年度以降は黒字が見込まれる。医師向けセミナーは 98 万円の黒字となった。
- ・理事会費：主に出席者の旅費・日当などであり、欠席者数に応じて予算比減となった。
- ・事務局費：予算通りであった。
- ・郵送費：年会費納入依頼を再度行ったため増額となった。
- ・年会費払込手数料：会費納入率改善のため増額となった。

<収支差額> 2015 年度の当期単年度収支は 160 万円の黒字となった。

<監査報告>

- ・書類を確認し、特に問題ないと判断した。お金の動きや用途、事務局の処理方法なども確認した。事務局もわかりやすい内容にまとめていた。
- ・正会員の年会費収入の予算の立て方については、これまで会員数の 80%の納入を想定して立案してきたが、未払い分は未収金で処理するため今後は 100%で立てるよう指導した。
- ・これまで予算と決算の乖離が度々指摘されていた委員会費については、項目を「委員会費」と「事業費」に分けて内訳を明確にするよう指導した。
- ・学術集会の緊急時に備える面でも学会本体の財務を増強していく必要がある。
- ・年会費の増額については、まずは会員になるメリットを提示すべきだとの意見が出ておりまた多職種が活動する本会の状況も勘案する必要があるとの審議が理事会で進んでいる。

- ・以上、2015 年度決算について報告を行い、承認された。

第2号議案 2016年度（2016年4月1日～2017年3月31日）事業計画および
収支予算の件（大塚事務局担当理事）

<収入>

- ・年会費：正会員については、監事の指導のもと会員数×金額をそのまま計上した。
- ・広告費：第1号・第2号いずれも全ページの掲載を仮定して計上した。
- ・事業費：医学会セミナーは本来の定員設定に基づいて計上した。医師向けセミナーは本年度から8月と2月の年2回開催となり増額で計上した。
- ・専門医関連：例年通り計上した。
- ・機関誌販売等：別刷販売は前年決算の減額を考慮して計上した。

<支出>

- ・機関紙発行諸経費：第1号のページ数削減に伴って減額となった実費を計上した。第2号

はガイドラインの掲載などを見込んだ結果、例年とほぼ同額を計上した。

- ・学術集会援助費：本年度は今回の第 38 回学術集会分とともに、次年度の第 39 回学術集会分も前納し、早い段階で会長に準備資金を提供することを目的に 2 年分の計上をしたため増額した。来年度以降は 1 年分の計上を行う予定。
 - ・委員会費：これまで予算と決算の乖離が度々指摘されていた本項目を「委員会費」と「事業費」に分けて計上した。委員会費は前年実績ベースで計上した。
 - ・事業費：元々「委員会費」として取り扱っていた ECMO 事業費・ARDS ガイドライン作成費・小児在宅人工呼吸マニュアル作成費・セミナー開催費を、事業費として計上した。医師向けセミナーは本年度年 2 回開催のため増額した。
 - ・理事会費：臨時理事会を開催したため例年より 1 回分多く計上した。
- <収支差額>2016 年度の当期単年度予算収支は 210 万円の赤字となっているが、2 回分の学術集会援助費を同時に支出することや、本年度に限る事業費増額分が主な理由となる。

- ・以上、2016 年度予算について提案し、承認された。

第 3 号議案 理事および監事の改選の件

- ・先に役員として承認された理事 7 名（今中秀光先生、大塚将秀先生、川前金幸先生、小谷透先生、志馬伸朗先生、蝶名林直彦先生、西田 修先生）と監事 2 名（落合亮一先生、橋本 悟先生）を改めて確認した。

第 4 号議案 第 41 回学術集会会長候補者の選任の件

- ・藤野裕士先生が標記学術集会会長に推薦され、本総会にて承認された。
- ・以上により、次期職責指定理事が決定し、承認された（布宮 伸会長、竹田晋浩副会長、藤野裕士副会長）。

【臨時理事会】

1. 新理事長の選出

- ・新理事 7 名（今中秀光理事、大塚将秀理事、川前金幸理事、小谷 透理事、志馬伸朗理事、蝶名林直彦理事、西田 修理事）と新監事 2 名（落合亮一監事、橋本 悟監事）により、臨時理事会を開催した。
- ・定款ならびに定款施行細則に基づき、新選挙理事 7 名の互選により新理事長を選出するため、選挙管理委員 2 名の立会のもと投票を行った。その結果、川前金幸理事が選出され再任することとなった。

2. 職種指定理事の選出

- ・神津 玲代議員（理学療法士）、森松 静代議員（看護師）、山本信章代議員（臨床工学技士）の 3 名を推薦することを確認した。

【定時社員総会再開】

- ・新理事長が発表され、職責指定理事、職種指定理事、監事も含めた新役員体制が承認された。それぞれ就任挨拶を行った。

第 5 号議案 名誉会員推戴の件

- ・本年度に任期を満了した代議員の中から、氏家良人先生、磨田 裕先生、岡元和文先生、公文啓二先生、妙中信之先生、多治見公高先生、盛 直久先生の 7 名の名誉会員推戴が提案され承認された。

第 6 号議案 本会会計と学術集会会計の連結決算について

- ・財務委員会の報告の中で、布宮理事が会長を務める次回の学術集会から連結決算を進めていくことが提案された。
- ・質問はなく、挙手による採決が行われ、賛成多数で承認された。

VII. その他

- ・本総会をもって理事連続3期の任期を満了した尾崎孝平代議員から挨拶があった。

VIII. 閉 会（川前理事長）

- ・閉会宣言があった。

以上